
小中一貫教育について

令和5年7月28日

富士見市教育委員会



本日の流れ

- 1 小中一貫教育の必要性
- 2 現在の取組について
- 3 成果と課題について
- 4 今後の展望について

**1. 小中一貫教育
の必要性**

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(1)これまで

○児童生徒間

挨拶運動、合唱交流、中学生の陸上指導 等

○教員間

各中学校区での連絡会、合同研修会 等

→「小中連携」の実践

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

〈成果〉

- 児童生徒の意識・技能向上
- 小中間の相互理解（生活・学習面等）

〈課題〉

○「中1ギャップ」

→中学校での学習や生活への不適応

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(2) 小中一貫教育の定義

【目指す姿】

「いのちを輝かせ精一杯生きる子どもたち」の育成



小中学校間の「密接な連携」を図り、一貫性のある
指導を行うもの

**1. 小中一貫教育
の必要性**

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(3) 小中一貫教育の目的

- 義務教育9年間を見通した系統性・継続性のある教育を行う。
- 中学校区の各学校の関係を強め、教職員の指導力向上を目指す。
- 学校・家庭・地域の「つながり」を強め、「地域と共にある学校づくり」を推進する。

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(4)これから

「目指す児童生徒像」を学校・家庭・地域で共有



「一貫性のある指導」



「地域とともにある学校」

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(1) モデル校における取組 (R2～4年度)

- ・小中一貫支援員の配置
- ・乗り入れ授業 (中→小)
- ・カリキュラムの作成

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(1) モデル校における取組

① 本郷中学校区（水谷小・みずほ台小）

○ 英語科での乗り入れ授業

- ・授業における会話・発音練習
- ・教員の授業づくり支援

○ 小中連絡会

○ 各種たより・広報誌の交換

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(1) モデル校における取組 ①本郷中学校区(水谷小・みずほ台小)

	単元の目標 →中学校の教員の支援	児童の変容
1月	小学校生活の思い出を伝え合うことができる。 →行事や気持ちの単語を英語で教える。 発音を教える。 ペア学習での支援をする。	行事や気持ちを積極的に伝えようと 取り組んでいる児童がみられた。
2月 3月	中学校生活や将来について考え、夢を発表 することができる。 →中学校の生活の様子を英語で伝える。 職業や将来の夢(～になりたい)についての英 単語を教える。	中学校の様子を聞き、休み時間に 積極的に中学校について質問して いる児童がみられた。中学校への 興味や関心を高まったようである。

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(1) モデル校における取組

② 西中学校区（関沢小・針ヶ谷小）

○算数・数学科での乗り入れ授業

- ・「数と式」分野を中心に
- ・学校間の教え方の「共通点」や「違い」について整理

○相互授業参観・情報交換会

○合同あいさつ運動・引き渡し訓練

○合唱・陸上運動交流

分数の学習について

小中で一貫の指導ポイント

「分数に対して、正しく理解をし、基本的な計算ができること」

【小学校での「分数」】 「分数」の学習は、小学校2年生での紹介を経て、3年生から本格的に学習が始まります。「分数とは何か?」「通分」「約分」「割り算の方法」「整数・小数との混合計算」など、難しい!と感じることが多いです

<分数の概念の理解>

1をいくつかに分けると...

いくつかに分けたうちの何こ...

「約分」

$$\frac{3}{9} = \frac{1}{3}$$

どちらも3で割れる

小数との対比

$$\frac{1}{4} = 0.25 \quad \frac{3}{4} > 0.5$$

<分数ってなに?>

<できるだけ小さな数字で表す>

<量の感覚をつかむ>

<分数の計算> = 分数の四則計算のルールを定着させよう!

「通分」して計算

$$\frac{1}{4} + \frac{1}{3} = \frac{3}{12} + \frac{4}{12} =$$

分母が同じじゃないと計算できない!

【たし算/引き算】

分子分母別でそのまま計算

$$\frac{3}{4} \times \frac{3}{5} = \frac{3 \times 3}{4 \times 5} =$$

分子、分母それぞれで、そのままかけ算できる!

【かけ算】

割る分数をひっくり返して計算

$$\frac{3}{4} \div \frac{2}{3} = \frac{3 \times 3}{4 \times 2} =$$

割る数をひっくり返して、分子、分母それぞれで、かけ算する!

【割り算】

【中学校での「分数」】 「分数」は、式の計算だけでなく、「関数」「図形」「資料の活用」にも **あたりまえのように登場** します。小学校の時に身につけていないと、様々な問題の答えを出すときにまちがえて、つまずきの原因になってしまうことが

○中学でのつまずきポイント!

☆ちがい: 中学校では、割り算の答えを「小数」にすることはほとんどありません。

帯分数(○と△分の□)も使いません。

「約分」 = 中学校では答えが「分数」で終わることが多いです。

「約分」を忘れずに、きれいな答えにすることが大切!

「量の感覚」 = 問題の答えが正しいかどうか、見当をつけるには、

「分数」が示す「大きさ・量」の感覚がわかることが大切!

- ・仮分数(分子の方が大きい)は、1より大きい。
- ・真分数(分母の方が大きい)は、1より小さい。
- ・分母と分子の関係から、分数で表された数の大きさの見当をつけることができる。

「計算のルール」 = 「分数」の四則計算のルールは「ルール」として定着を!

$$\text{中 } 2a \div 3 = \frac{2a}{3} \quad \circ$$

※なぜ割り算はひっくり返す? はもうやりません!

☆「足し算/引き算」と「かけ算/割り算」の禁止ルールの考え方は、中学校での文字式のルール理解にも通じます!

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【モデル校（主に乗り入れ授業）の成果】

教員

- 学習内容の把握
- 指導法の工夫
- 共通理解
- 個別支援

学習面

生徒指導面

児童・生徒

- 学習理解
- 見通し
- 期待
- 不安軽減

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(2) 各中学校区における取組

学校区	小学校
富士見台中学校区	鶴瀬小学校・つるせ台小学校
本郷中学校区	水谷小学校・みずほ台小学校
東中学校区	南畑小学校・諏訪小学校・富士見特別支援学校
西中学校区	関沢小学校・針ヶ谷小学校
勝瀬中学校区	勝瀬小学校・ふじみ野小学校
水谷中学校区	水谷東小学校

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(2) 各中学校区における取組

〈主な取組例〉

○児童生徒間

- ・挨拶運動
- ・合唱交流
- ・中学生の陸上指導
- ・いじめのない学校づくり子ども会議
- ・合同一斉下校・引き渡し訓練
- ・部活動発表会 等

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

(2) 各中学校区における取組

○教員間

- ・各中学校区での連絡会
- ・合同研修会
- ・乗り入れ授業
- ・授業参観
- ・カリキュラム作成 等

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組(R5)

『豊かな人間関係の中で困難を乗り越えることができる児童生徒の育成』

～家庭・地域と共に9年間の学びをつなぐ～

小中一貫教育・情報交換会
令和5年6月20日(火)



1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組

【令和5年度の研究・実践の重点】

- ①教科・領域に係る小中の課題及び実践の共有
- ②令和6年度に向けた取組の試行と教育課程編成に係る検討

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組



公開授業

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組



公開授業

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組
【研究組織】

小中一貫教育・連絡協議会(校長・教頭・教務)

小中一貫教育・全体研修会(年1回)

小中一貫教育・情報交換会(年2回)

学校保健
研究部

体育指導
体力向上
研究部

特別活動
研究部

生徒指導
研究部

教育相談
研究部

特別支援
教育
研究部

ICT活用
研究部

研究部

1. 小中一貫教育 の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望



研究部ごとの話し合い

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組(7つの研究部)

学校保健研究部

- ・地域学校保健委員会の立ち上げの検討
- ・発達段階に応じた性・LGBTQに関する指導の在り方

体育指導・体力向上研究部

- ・体力の実態把握と共通課題を見出す
- ・系統性を意識した取組の決定と実践

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組(7つの研究部)

特別活動研究部

- ・話し合い活動の取り組み方についての共有化・継続化・発展化
- ・児童生徒が交流できる効果的な取組の決定と実践

生徒指導研究部

- ・生徒指導上の課題を共有
- ・未然防止の視点で一貫して取り組める内容の決定と実践

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組(7つの研究部)

教育相談研究部

- ・教育相談上の課題の共有
- ・未然防止、不登校者減少に向けた一貫した取組内容の決定と実践

特別支援教育研究部

- ・特別支援教育支援上の課題を共有し、一貫した取組内容の決定と実践
- ・UDを踏まえた学習指導の進め方についての実践

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組(7つの研究部)

ICT活用研究部

- ・ICT活用上の課題の共有とスキル・モラル、環境整備等について一貫した取組内容の決定と実践

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

◇勝瀬中学校区の取組(予定)

8月 全体研修会 ……進捗状況の把握

1月 合同情報交換会 ……公開授業(小学校)
各研究部の取組報告

※勝瀬中教職員

→ 勝 瀬 小

→ ふじみ野小

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【成果】

①児童生徒にとって

- ・個々の現状に応じた適切な指導及び支援を受けることができる。
- ・中学校の学習・生活への理解や興味関心が高まるとともに、中学校生活について見通しをもつことができる。(安心感)

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【成果】

②教員にとって

- ・児童や学級集団の実態・情報の把握ができる。
- ・教員間の交流により、小中間の情報交換により、互いの教育活動を学ぶことで、9年間を見通した指導のイメージの共有化を推進することができる。

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【課題】

①全体を通して

- ・各中学校区における目標を明確にし、全教職員が共有すること。
- ・教員間の交流・情報交換の時間を確保すること。
- ・乗り入れ授業の時間の調整

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【課題】

②小中一貫支援員

- ・週1回程度の訪問→継続的な指導・支援が難しい。
 - ・担当教員が不在→中学校の授業について、指導の継続性・指導方法の統一が難しい。
- ★人材確保が非常に難しい。

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【課題】 ★人材確保が非常に難しい。

優先順位①産・育休、病休に伴う代員教員

優先順位②様々な「加配」に充てる教員

優先順位③各支援員

不足

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

課題解決に向けた方策

課題

- ・各中学校区における目標の明確化・共有化
- ・教員間の交流・情報交換の時間を確保
- ・乗り入れ授業の時間の調整



- ・校長会及び教頭会での情報提供
- ・計画的な日程調整やリモートでの情報交換
- ・指導主事による担当校への積極的な指導・助言

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

課題解決に向けた方策

小中一貫支援員

課題

- ・週1回程度の訪問→継続的な指導・支援が難しい。
- ・担当教員が不在→中学校の授業について、指導の継続性・指導方法の統一が難しい。

★人材確保が非常に難しい。



県教委への働きかけ

広報活動の工夫

市で常勤の支援員を確保

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【対応】 ★人材確保が非常に難しい。

①西部教育事務所における臨時的任用職員名簿のチェック

②募集チラシの掲示・配付の依頼

・11大学

・市内3駅

・ららぽーとの掲示板

・市内掲示板(20カ所)

③市のツイッターでの情報発信

R6

「初任者の配置」
による欠員の解消

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

実施時期	内容
令和5年2学期	各種調査結果から、各中学校区で課題の明確化
3学期	課題をもとに、令和6年度に作成するカリキュラムの教科等の選定 課題解決に向けた乗り入れ授業の実施計画作成・研修会・部会等の年間計画立案
令和6年	計画に従って各中学校区で実践

1. 小中一貫教育
の必要性

2. 現在の取組

3. 成果と課題

4. 今後の展望

【目指す姿】「いのちを輝かせ精一杯生きる子どもたち」の育成



小中一貫教育

令和9年度末までに

学校が楽しい

90%

(R3)小 76.6%

中 80.4%

学力が伸びた児童生徒の割合

県平均以上

(R3)【小5国】市 70.0%(県 72.9%)

【中2国】市 58.5%(県 57.1%)

【小5算】市 79.1%(県 81.5%)

【中2数】市 78.0%(県 72.0%)

不登校生徒率

3%以下に

(R3)3.22%

【指 標】

第3次富士見市
教育振興基本計画より

ご清聴ありがとうございました